

## 基本計画 第3章

### 分野別施策

分野 1 子ども・子育て、教育

分野 2 健康、福祉

分野 3 共生、文化芸術、スポーツ

分野 4 安心・安全、都市基盤、交通

分野 5 産業、雇用、環境

分野別施策では、まず目指す姿を想定し、現状を把握します。その上で、目指す姿に到達するための課題を整理し、その課題を解決する取組方針をまとめています。

また、国が示した地方創生 SDGs ローカル指標リストを参考にした成果指標を、一部設定しています。このような成果指標は、SDGs が必達目標でないことを踏まえ、目標値ではなく目指すべき方向性（矢印などの定性的な目標）を設定しています。

これらの成果指標は、目標値にとらわれず、値が変動した要因・分析に焦点を当て、データや証拠に基づいて、施策の効果を高めるための幅広い議論、検討をしていきます。

# 子育てにやさしいまちづくりを推進する

## ➤ 目指す姿

遊びや会話など、家族で楽しい時間を過ごしている親子に温かい眼差しが注がれ、子どもたちの笑顔を中心に周りの人々に幸せな気持ちが広がっています。

## ➤ 現 状

地域のつながりが希薄となる中で、孤立感や不安感を抱える妊婦や子育て世帯が増加傾向にあります。

子どもの抱える課題が多様化するとともに、医療的ケア児<sup>1</sup>、障がい児、発達に課題のある子どもについての相談が増加傾向にあります。

女性の就労率の向上や核家族化などにより、保育需要が高まっています。

ひらつかネウボラルーム「はぐくみ」をはじめとした相談支援や子育て支援施設が充実するとともに、子育て世代の心理的・経済的不安を軽減する支援制度が揃っています。

1 日常生活及び社会生活を営むために恒常的に人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為を受けることが不可欠である児童のこと。

## ➤ 課 題

子どもの視点に立った支援を強化する必要があります。

安心して産み育てられる環境の整備、医療体制が必要です。

子育てと仕事を両立し、多様なニーズを踏まえた安全な幼児教育・保育環境の整備が必要です。

将来の人口減少を見据えた保育士の確保が必要です。



## 取組方針

- 妊娠・出産・子育てにおける不安を解消し、切れ目のない支援を行います。
- 様々な課題を抱える世帯やヤングケアラー<sup>1</sup>などの子どもを支援します。
- 小児・周産期の救急診療、医療提供体制を維持します。
- 少子化の進行と多様なニーズを踏まえた保育所等の整備、保育士確保とともに保育の質を高めます。
- 放課後児童クラブの整備を進めます。
- 保育所等における保護者や保育士の負担軽減と安全対策を強化します。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

- 子育て情報にアクセスしやすい環境整備・充実
- 子育て関連施設における再生可能エネルギーの効率的な利用推進

1 家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものこと。

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
子育てに関する相談件数 <sup>1</sup>	-	5,300件	5,420件
保育所等申込者に対する受入可能人数の割合	97.0%	100%	100%

1 こども家庭センター・こども発達支援室くれよんにおける相談件数のこと。

# 子どもの学びを充実する

## ➤ 目指す姿

学校で学んだことが、明日、そして将来につながっています。児童・生徒一人一人が、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動しており、それぞれに思い描く幸せの実現に向けて希望を持っています。そして、社会に出たとき、明るい未来の創り手となっています。

## ➤ 現 状

確かな学力<sup>1</sup>を育成しています。

豊かな心<sup>2</sup>と健やかな体を育成しています。

1人1台のタブレット端末や高速大容量の通信ネットワーク環境が整っています。  
地域とともにある学校づくりが求められています。

- 1 知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性などのこと。
- 2 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやりの心などのこと。

## ➤ 課 題

主体的・対話的で深い学びを実現する必要があります。

自己肯定感や思いやりの心を育む必要があります。

基本的な生活習慣や運動習慣を確立する必要があります。

これまで実践してきた教育活動とICT<sup>1</sup>を活用した教育活動のベストミックスを図る必要があります。

学校運営に地域の人的・物的資源を活用する必要があります。

- 1 インターネットなどを活用してコミュニケーションができる情報通信技術のこと。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善につながる、個別最適で協働的な学びを充実します。

道徳教育や人権教育及び体験活動を充実します。

体育・健康に関する指導を充実します。

教員のICT活用指導力を高めます。

学校教育や学校運営において、地域との連携を強化します。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

タブレット端末を活用した授業と教員向けICT活用研修会の実施  
環境教育の充実

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
授業（国語、算数・数学）の内容がよく分かると回答した児童・生徒の割合（小・中学校）	小 81.5% 中 78.8%	小 82.5% 中 80.0%	小 83.5% 中 81.0%
自分には良いところがあると回答した児童・生徒の割合（小・中学校）	小 77.6% 中 76.0%	小 81.0% 中 78.5%	小 84.0% 中 81.0%

# 教育環境を充実する

## ➤ 目指す姿

全ての学校で、事故を未然に防いでおり、安全な施設の中で子どもたちが学校生活を過ごしています。また、一人一人の興味や関心、課題に応じた指導や支援の中で、子どもたちが自らの可能性を感じ、未来へ向かって歩んでいます。

## ➤ 現 状

子どもの抱える困難さや教育的ニーズが多様化・複雑化しています。  
学校施設や各種設備が老朽化しています。  
学校を取り巻く社会情勢や環境の変化により、子どもたちを取り巻く環境も変化しています。  
県立特別支援学校の助言を児童・生徒への適切な支援につなげ、暮らし慣れた地域の学校で学んでいます。

## ➤ 課 題

子どもたちの健やかな成長を支える必要があります。  
悩みや課題を抱える子どもに寄り添い、教育機会を確保する必要があります。  
学校施設の適切な管理と教職員の安全管理意識の向上が必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

- 持続可能で効率的な給食運営を実現します。
- インクルーシブ教育<sup>1</sup>を推進するとともに、相談・支援体制を強化します。
- 経済的な理由により、修学が困難な家庭を支援します。
- 学校施設や各種設備の計画的な整備を進めます。
- 学校事故や災害等を想定した危機管理演習を実施します。
- 通学路の環境整備をはじめ、学校安全対策を推進します。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

学校施設における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

- 1 共生社会の実現に向け、すべての子どもが、できるだけ同じ場で共に学び共に育つことをめざす教育のこと。

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
小・中学校のトイレの洋式化率	60.3%	83.8%	89.7% <sup>1</sup>
学校に行くのは楽しいと回答した 児童・生徒の割合（小・中学校）	小 84.1%	小 88.0%	小 89.0%
	中 84.3%	中 85.0%	中 86.0%

1 学校トイレ洋式化計画は2029年度までの計画となっています。

# 青少年の健全育成を推進する

## ➤ 目指す姿

青少年が自分自身に自信を持ち、社会性やリーダーシップを育む中で、大切な思い出を作っています。また、次世代の社会の担い手としての活躍が期待されています。

## ➤ 現 状

青少年の抱える課題が多様化・複雑化しています。  
ジュニア・リーダーズクラブの会員数が減少しているほか、地区での活動が縮小しています。  
県内他市と比べて、多くの青少年指導員が活動しています。  
孤立し、ひきこもり状態になっている一部の青少年がいます。

## ➤ 課 題

青少年の抱える課題に対処する必要があります。  
地域をけん引する青少年を育てる必要があります。  
青少年指導員を中心とした新たな意欲のある人材が必要です。  
ひきこもり状態にある青少年の孤立を解消する必要があります。  
青少年活動の拠点であるびわ青少年の家を利活用する必要があります。





## ➤ 取組方針

青少年の非行化防止の活動を充実するとともに、相談体制の質的向上を図ります。  
 集団活動と青少年リーダーの魅力を発信するとともに、広域連携した研修などを充実します。  
 青少年指導員の活動等について、効果的に情報を発信し、加入を促進します。  
 ひきこもりの支援団体等と連携し、社会参加のきっかけづくりを推進します。  
 びわ青少年の家の利用対象を広げ、幅広い用途で活用します。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

青少年に対する環境意識の啓発

## ➤ 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
愛護指導 <sup>1</sup> 件数	817件	1,130件	970件
ジュニア・リーダーズクラブの 派遣回数 <sup>2</sup>	7件	15件	18件

- 1 青少年の問題行動の早期発見・早期指導、非行化防止のための声掛けや見回り活動のこと。
- 2 地域団体等への派遣回数のこと。

重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

# 健康づくりを推進する

## ➤ 目指す姿

若い年代から健康を維持増進するため、自ら進んで食生活や運動習慣の改善を図り、一人一人が仕事や趣味、家庭生活を充実しながら心身ともに健やかな人生を歩んでいます。

## ➤ 現 状

国民健康保険の特定健康診査や特定保健指導の実施率は、全国平均と比較して低く、メタボリックシンドロームの予備群及び該当者が増加しています。  
食育<sup>1</sup>への関心度が、国・県と比較して低くなっています。  
地域の拠点病院の重要性が高まっています。  
感染症の感染予防及びまん延防止が求められています。

- 1 生きるうえでの基本であって、知育・徳育及び体育の基礎となり、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

## ➤ 課 題

市民一人一人が、自ら進んで健康づくりに取り組む必要があります。  
食育の関心を高める必要があります。  
良質で高度な医療を提供し続ける必要があります。  
新たな感染症や既知の感染症に迅速かつ的確に対応する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

健康に対する正しい知識を習得する場を提供するとともに、健（検）診等を受けやすい環境づくりに取り組みます。

生活習慣病の発症や重症化の予防、介護予防に取り組みます。

地産地消<sup>1</sup>を推進するとともに、心身の健康につながる食の情報を提供します。

市民病院における診療体制を整えます。

感染症対策として予防接種・啓発を行います。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

医療・健康分野におけるデジタル技術の活用促進

保健センター等における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

<sup>1</sup> その地域で生産された農水産物を、その生産された地域内において消費する取組のこと。

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
がん検診の受診率	胃がん 2.1% 肺がん 14.1% 大腸がん 7.7%	胃がん 2.3% 肺がん 14.6% 大腸がん 8.7%	胃がん 2.5% 肺がん 15.0% 大腸がん 9.5%
特定健康診査 <sup>1</sup> の受診率	36.3%	43.3%	45.3%

<sup>1</sup> 平塚市国民健康保険が被保険者に対して実施する糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病の発症・重症化の予防改善を目的とした健康診断のこと。

# 地域福祉を充実する

## ➤ 目指す姿

一人一人の生活を、愛着のある帰るべき場所としての地域が温かく包み、様々な困難を抱えた場合でも、世代を超えて互いにつながり、支え合いながら、全ての人がそれぞれにとっての生きがいや将来に向けた希望を持って、不安のない充実した毎日を送っています。

## ➤ 現 状

地域住民の抱える課題が複雑化・複合化しています。

ボランティアの高齢化や固定化が進み、町内福祉村<sup>1</sup>などの地域活動を継続していくことが難しくなっています。

- 1 住み慣れた地域の中で、地域住民が主体となって生活支援や居場所づくりを中心に、それぞれの地域に合った活動を企画・展開しながら、互いに支え合い、助け合う地域づくりを進めるボランティア組織

## ➤ 課 題

地域住民の分野横断的な課題を解決する必要があります。

世代を超えた人と人とのつながりを創り、持続可能な支え合いのまちづくりを促進する必要があります。

市民のこころと命を守り、判断能力が十分ではない人の権利を擁護する必要があります。

貧困の負の連鎖を断ち切る必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

複雑化・複合化した暮らしの課題に対応する仕組みを構築します。  
 地域活動を中核とした地域づくりを進めるとともに、地域の拠点づくりや施設のあり方を見直し、多世代交流を進めます。  
 自殺対策に取り組むゲートキーパー<sup>1</sup>や市民後見人<sup>2</sup>を養成します。  
 アウトリーチにより生活困窮世帯を把握し、生活保護受給世帯も含めて経済的自立に向けた取組を進めます。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

福祉施設における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

- 1 こころに不調を抱える方、自殺に傾く人のサインに気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなぎ、見守る人のこと。
- 2 弁護士や司法書士、社会福祉士などの資格をもたない、親族以外の市民による成年後見人（保佐人・補助人）のことで、市町村等が実施する研修を修了し、成年後見制度に関する一定の知識や倫理を身に付け、家庭裁判所から成年後見人等として選任された人のこと。

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
町内福祉村の設置地区数	18 地区	20 地区	22 地区
町内福祉村のボランティア登録数	1,514 人	1,750 人	2,000 人
人口 10 万人当たりの自殺者数	16.8 人	↘	↘

# 高齢者福祉を充実する

## ➤ 目指す姿

人生100年時代<sup>1</sup>の中、元気な人だけでなく介護や医療が必要な高齢者であっても、住み慣れた地域で、人とのつながりを大切にしながら、自分の時間を楽しんでいます。また、これまでに培った経験や能力、趣味などが活かされ、地域の人たちと頼り、頼られ、生きがいを持って、自分らしく暮らし続けています。

- 1 100歳まで人生が続くことが当たり前になる時代のこと。平均寿命が伸びることにより、100年間生きることを前提とした人生設計が必要と言われている。従来は、年齢に応じて「学ぶ・働く・老後を過ごす」という流れが人生の一般的な姿であったが、人生100年時代では年齢による区切りが無くなり、学び直しや再就職、社会貢献など、人生の選択肢が多様化すると考えられている。

## ➤ 現 状

健康寿命が延伸する中で、単身世帯の増加などが進んでいます。

85歳以上の高齢者人口の増加に伴い、介護サービスの需要が更に高まっています。

脳血管疾患や認知症が介護リスクを高めています。

## ➤ 課 題

介護保険サービスの安定的な提供が必要です。

フレイル及び生活習慣病の重症化を予防する必要があります。

高齢者がいつまでも活躍できる場と生涯にわたる生きがいづくりが必要です。

いつまでも充実した生活を送り、自らの意思や知識、経験、資産等を不安なく次世代に引き継げるよう、一人一人の権利を守る必要があります



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

介護人材の確保、介護現場の生産性向上に向けた取組や介護サービスの質の向上を推進します。高齢者が地域の中で多様な役割を担い、元気で長生きできるように、介護予防に取り組みやすい環境を整えます。

高齢者が働き方と働き場所を選択でき、技能や知識・経験を活かせる生きがい就労を支援します。

権利擁護<sup>1</sup>並びに認知症総合施策を推進します。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

AI 電話サービス<sup>2</sup>等による独り暮らしの高齢者見守り支援  
 高齢者施設等における省エネ型設備等の導入に係る啓発

- 1 本人の尊厳を保持し、その人らしい生活を安心して送ることができるように、本人の意思を代弁したりサポートすることにより一人一人の権利を守ること。
- 2 人工知能が、電話口での話す内容を解析することで電話業務の自動化を実現するサービスのこと。

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
認知症サポーター養成者数【累計】	27,309人	34,600人	42,000人
フレイルリスク <sup>1</sup> の減少・維持者の割合	66.5%	68.0%	70.0%

1 フレイルの兆候をチェックする 22 の質問項目のうち 8 個以上に該当することで、フレイルが進行し将来的に要介護状態になる危険性のこと。

# 障がい福祉を推進する

## ➤ 目指す姿

障がいの有無に関わらず、手話や新しいデジタル技術で自然にコミュニケーションをとり、困っている人には手を差し伸べる思いやりが育まれ、地域に心からの笑顔があふれ、共に生きることの素晴らしさを感じています。

## ➤ 現 状

障がい者の自立及び社会参加の支援等のための法整備が行われています。

障がい者への理解や権利擁護<sup>1</sup>の必要性が高まっています。

ダイバーシティ&インクルージョン<sup>2</sup>の考え方が広まっており、障がい者の就労支援に関する需要は増加し続けています。

- 1 本人の尊厳を保持し、その人らしい生活を安心して送ることができるように、本人の意思を代弁したりサポートすることにより一人一人の権利を守ること。
- 2 多様性と包括性。ただ多様な人材を雇用するのではなく、能力を最大限発揮させ活躍させることを含めた考え方のこと。

## ➤ 課 題

障がいへの理解を深め、障がい者がその人らしく暮らすことが必要です。

障がい者が自立した生活を送ることが必要です。

障がい者の増加等に伴い多様化・複雑化する障がい福祉サービスの需要増加に対応する必要があります。





重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

障がい者の地域移行や地域生活の支援に関する諸課題に対応できる仕組みづくりを促進します。

心のバリアフリー<sup>1</sup>に関する取組を推進します。

障がい特性と希望に応じた就労支援を促進します。

相談支援や在宅サービス等の提供体制の強化に取り組みます。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

デジタル技術の活用による障がい者が行う情報取得・意思疎通の支援  
障がい福祉事業所における脱炭素化に資する取組の啓発

- 1 様々な心身の特性や考え方を有する全ての人々が、相互に理解を深めるためにコミュニケーションをとり、支えあう考え方のこと。

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
在宅福祉サービスの利用者数	3,010人	3,060人	3,100人
ひらつか就労援助センターの支援を受けながら就労している人数	399人	614人	867人

# 平和意識の普及啓発や人権尊重を推進する

## ➤ 目指す姿

恒久平和の実現に向けて、自分にできることを考え、実行しています。また、その行動が周囲の人々にも影響を与え、社会全体がより平和へと向かっています。

一人一人の人権が尊重されており、あらゆる差別がなく、多様な人々が社会で活躍しています。また、ジェンダー平等<sup>1</sup>のもと、お互いの個性や違いを尊重し、多様性を認め合いながら、自分らしく生きることができています。

1 一人一人が、性別に関わらず平等に責任、権利、機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めること。

## ➤ 現 状

戦争体験者の高齢化が進み、戦争を知らない世代が増えています。

人権問題は社会の変化につれて多様性と複雑性が増しています。

社会の様々な場面で、男性優位の状況が見られます。

## ➤ 課 題

戦争の悲惨さを後世に伝える必要があります。

平和推進の主体を若い世代を中心に担ってもらう必要があります。

人権尊重の理念を浸透させる必要があります。

固定的な性別役割分担意識<sup>1</sup>を解消させる必要があります。

1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきなど、性別を理由に役割を固定的に分ける考え方のこと。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

児童、生徒及び学生を中心に、平和意識の普及啓発に取り組みます。  
 人権教育及び人権啓発を推進するとともに、関係機関との連携を深め、様々な人権問題に関する相談・支援体制の充実を図ります。  
 性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するための環境づくりを進めます。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

戦争体験談等の電子媒体への保存と活用

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
平和推進事業への参加者数	1,620人	4,100人	4,400人
平和推進事業における若い世代の協力者 <sup>1</sup> 数	28人	50人	80人
市審議会等における女性委員の割合	27.2%	30%	40%
人権事業への参加者数	865人	920人	940人

1 中・高・大学生のボランティアなどのこと。

# 市民交流・多文化共生を推進する

## ➤ 目指す姿

友好都市・姉妹都市<sup>1</sup>との相互理解が深まり、異なる文化や価値観を受け入れることができる豊かな人間性が育まれています。また、多文化共生のまちとして、多様な市民が言語や生活習慣の違いを理解し、尊重し合いながら暮らしています。

市民、企業及び大学が強みを持ち寄って交流し、地域への愛着を深め、つながりができています。

- 1 様々な分野での交流や友好親善を目的として、両市長が書面にて提携に合意した都市のこと。名称の使い分けに法律上の定めはないが、本市では、国内の都市を友好都市、海外の都市を姉妹都市としている。

## ➤ 現 状

社会情勢の変化により、交流に対する市民の考え方が多様化しています。

留学生や技能実習生の増加に伴い、外国籍市民が増加しています。

新たな姉妹都市提携により、市民交流の機会が創出されています。

文化・生涯学習、スポーツ、福祉、環境、観光・産業の分野において、市民、企業及び大学の交流を進めています。

## ➤ 課 題

友好都市・姉妹都市の魅力について、理解と関心を高める必要があります。

外国籍市民が地域で安心して暮らせることが必要です。

企業や大学の持つ知識やノウハウを活かし、市民、企業及び大学のつながりを強化する必要があります。



## 取組方針

社会情勢や市民ニーズを捉えた友好都市・姉妹都市との交流を推進します。

多言語による相談や情報提供を行うとともに、外国籍市民のための日本語教室の充実を図ります。

多様な文化や習慣に触れる機会を充実させ、共生の意識を高めるとともに、異文化理解を促進します。

多様な分野において、市民、企業及び大学による地域活動の活性化を支援します。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

友好都市・姉妹都市とのオンライン交流の推進

日本語教室のオンライン化による学習機会の拡充

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
市民交流事業参加者数【累計】	238人	638人	958人
日本語教室の受講者数【累計】	54人	204人	324人
市民・大学交流委員会の事業数	11事業	14事業	14事業

# コミュニティ活動を促進する

## ➤ 目指す姿

地域ぐるみで自発的・自立的に地域課題が解決できるコミュニティが形成され、地域の絆が育まれています。

## ➤ 現 状

地域課題が多様化・複雑化しています。  
高齢の男性が中心となって自治会組織を運営しています。  
市民活動団体では会員の高齢化が進んでいます。  
地域において人間関係の希薄化が進んでいます。  
市内の全地区で、ちいき情報局<sup>1</sup>が開設されています。

- 1 パソコンやスマートフォン等を利用した、市内の地域情報を見ることができる地域向けの交流・情報提供サービスのこと。

## ➤ 課 題

自治会運営の持続可能性を高める必要があります。  
市民活動を活性化させる必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

自治会や市民活動団体、事業者など多様な主体間の連携や協働を促進します。  
 地域活動や市民活動への関心を高め、参加を促進します。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

- ちいき情報局の活用促進
- 環境保全に取り組む市民活動団体等の支援

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
地域における協議の場 <sup>1</sup> の数	8箇所	14箇所	16箇所
ひらつか市民活動センターの 利用人数	26,163人	28,000人	30,000人

1 様々な地域団体が集まり、地域の課題解決や更なる活性化を検討する場のこと。

# 生涯学習や文化芸術活動を推進する

## ➤ 目指す姿

生涯学習の環境や伝統芸能に触れる機会が充実している中、講座や地域での体験活動において幅広い世代の人たちが学び・交流し合い、知識や技能を次の世代につないでいます。多様な文化芸術活動が活発に行われるとともに、触れる機会が確保されており、誰もが豊かな感性を持ってうるおいある時間を過ごしています。

## ➤ 現 状

地域での学びや伝統文化が地域住民により継承されています。多様な文化芸術活動が、市内各所で行われています。地域課題や現代的課題など、多様な学習機会が提供されています。公民館の運営に地域住民が参画し、全ての地域で活動拠点として活用されています。

## ➤ 課 題

市民一人一人の郷土意識と愛着を醸成する必要があります。若い世代の文化芸術・伝統文化への関心・興味を高める必要があります。生涯学習における市民ニーズへの対応と、習得した知識や技能を地域で活かす環境づくりが必要です。





## 取組方針

平塚らしい文化の創造や、地域内の多世代交流を深めます。  
 文化活動や郷土芸能、歴史への理解を深め、後継者を育成します。  
 文化芸術ホールや社会教育施設を活用し、多様な市民が文化芸術に触れる機会を充実します。  
 学習や発表の場の充実、地域における人材育成や活用に取り組みます。  
 公民館事業におけるESD<sup>1</sup>を推進します。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

文化芸術ポータルサイト<sup>2</sup>の開設・充実

電子図書館<sup>3</sup>やICT<sup>4</sup>を活用したサービスの充実

博物館の電子展示システムの充実

社会教育施設における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

- 1 持続可能な開発のための教育。将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育のこと。
- 2 文化芸術に関するイベントや活動団体などの様々な情報を確認することができるホームページのこと。
- 3 インターネットを通して自分のパソコンやタブレット、スマートフォン等から電子書籍を読むことができるサービスのこと。
- 4 インターネットなどを活用してコミュニケーションができる情報通信技術のこと。

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
各種講座・講習会 <sup>1</sup> への参加者数	31,337人	41,700人	43,000人
文化芸術ホール主催事業の参加者数	24,684人	26,000人	27,000人

1 社会教育課、中央公民館、中央図書館、博物館、美術館が実施する事業のこと。

## 誰もが楽しめるスポーツを充実する

### ➤ 目指す姿

様々なスポーツ施設や体を気軽に動かす機会が存在し、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しんでおり、心身ともに健康で豊かな生活を送ることができています。

### ➤ 現 状

トップスポーツの試合が開催されており、子どもから大人まで観て、楽しむ環境が整っています。

パラスポーツ<sup>1</sup>やニュースポーツ<sup>2</sup>への関心が高まっており、スポーツに親しめる機会が提供されています。

子どもや高齢者の体力低下、青・壮年期の人が運動不足の傾向にあります。

- 1 身体機能や知的発育などに障がいを持つ人が行うスポーツのこと。
- 2 競技性を重視せず、誰でも参加できることを目的としたスポーツのこと。

### ➤ 課 題

生涯にわたり多様なスポーツ・レクリエーションに親しめる場、機会が必要です。  
様々な体力づくりの場、機会が必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

## 取組方針

湘南ベルマーレなどが行う取組を支援するとともに、トップスポーツと交流する場を設けて、幼少期からスポーツに触れ、楽しむ機会を充実させます。

指導者の育成や効率的なスポーツ施設の運営・管理を進めます。

パラスポーツ等の理解・普及を促進します。

体力、年齢、目的、身体状況に関わらずスポーツが楽しめる機会を充実させます。

### 【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

スポーツ施設における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

## 成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
パラスポーツ・ニュースポーツ 大会等参加者数	4,509人	5,000人	5,500人
スポーツ施設利用者数	1,299,699人	1,660,400人	1,660,400人